



特集 辞書指導と語彙指導



『G4 活用問題集』を使った辞書指導



小嶋義勝

真新しい英和辞典を手にしたものの、正しい上手な使い方を知らないために、宝の持ち腐れにしている生徒は多い。そんな状況を目の当たりにすると、英和辞典の効果的な使い方をどこかで時間を割いて指導する必要があると感じる。

『ジーニアス英和辞典〈第4版〉活用問題集』（以下、『G4 活用問題集』）は、『ジーニアス英和辞典 第4版』の基本的な使い方を、実際に辞書を使って問題を解きながら学習できるように作られている。辞書指導の教材にお薦めしたい。

『G4 活用問題集』は、11のテーマについて、「例題」「辞典の引き方（辞典本文の抜粋を含む）」「練習問題」の3つのパートから成っている。

以下、テーマごとに、辞典の引き方に関する学習内容と指導上のポイントを概説する。

1 〔単語〕意味を調べる

①見出し語はアルファベット順に並んでいる。

ポイント 通常の英和辞典の最も基本的な決まりである。成句・複合語などの順序も同じであり、辞書を使いながら慣れさせることが肝要。

②多義語・多品詞語に関して、ア) 語の意味の分類とつながりを一目で全体的に捉えられる語義展開図がある、イ) 意味や品詞は使用頻度順に出ている、ウ) 特に使用頻度が高い意味は太字になっている。

ポイント 目指す語義への近道として、「語義展開図」「使用頻度順」「太字」を活用させたい。

2 〔単語〕発音・アクセントを調べる

①見出しの次に発音記号があり、最も強く発音する箇所には / ˈ / がついている。

ポイント / ˈ / と / ˌ / の違いも指導を要する。

②〔同音〕はスペリングが違うが発音は同じ語、〔類音〕は発音は似ているが異なる語を示す。

ポイント 特に、〔同音〕であげられている既習語は、同音異義語という新たな側面を示し、生徒にとっては語彙の知識を増やす良い機会となる。

③〔発音注意〕〔アクセント注意〕で、間違えやすい発音（例えば、ローマ字式発音やカタカナ英語的アクセントなど）への注意を促している。

ポイント 最近では多くの生徒が電子辞書を持っている。電子辞書により実際に耳で正しい発音を認識させるのも大変有効である。

3 〔単語〕変化形を調べる

①名詞の見出し語は通例単数形である。不規則変化の複数名詞も見出し語として出ている。

ポイント 不規則変化の複数形と思われる場合はその形で引く、と指導するのも一方法である。

②動詞の変化形は全部 **――動** の後ろの（ ）の中に出ている。不規則変化の過去形・過去分詞形も見出し語としてあがっている。巻末には「不規則動詞活用表」がある。

ポイント 動詞の変化形の効率的な学習（復習）に「不規則動詞活用表」の利用を勧めたい。

③形容詞と副詞の変化形は、**――形**、**――副** の後ろに出ている。

ポイント 特に、2音節語の形容詞・副詞の変化形や、変化形自体がない形容詞・副詞（辞書には（比較なし）と表示してある）について注意を促す必要がある。

4 〔単語〕派生語・反意語を調べる

①多くの語には派生語や反意語がある。派生語は「派」で、派生先と派生元の関係は→と←で、反意語は⇔で示されている。

ポイント 「練習問題」の中に「文中の意味に応じて、指示された形の語」を書く問題がある。多義語の派生語にも関心を向けさせたい。なお、派生語・反意語の指導自体は、既知語・既習語を使って行うほうが効果的であろう。

5 【文型】動詞の型を見抜く

①動詞の使われ方には「型」があり、各語義番号の後ろに、S, V, O, Cなどの記号を用いて示されている。

ポイント 動詞の使われ方を「型」で捉えることを学ばせたい。「練習問題」では無生物主語構文も扱っており、英語的な発想にも目を向けさせる良い機会である。

6 【成句】名詞・副詞・形容詞の成句

①成句を調べる時は、意味の中核をなす語で調べる（名詞を含む成句はまず名詞で調べる）。

ポイント 目的の成句に素早く到達するための大事なスキルなので十分指導したい。

②成句は、各見出しの最後の部分に、太字のイタリック体でアルファベット順に出ている。

③成句が用例としてあがっていることもある。

7 【成句】動詞の成句【自】【他】【自⁺】

①動詞の成句の型は、成句の見出しの後ろに、【自】【他】【自⁺】で示されている。

②【自】は「自動詞＋副詞辞」、【他】は「他動詞＋副詞辞＋目的語」（または、「他動詞＋目的語＋副詞辞」）、【自⁺】は「自動詞＋前置詞＋目的語」の型を示す。

ポイント 【自⁺】がとる目的語は前置詞の目的語で語順は変わらないが、【他】のとる目的語は他動詞の目的語で語順は変わることがあることを、特に徹底したい。また、「練習問題」に句動詞を1語で言い換える問題があり、それを通して語彙の拡大を養う姿勢も育てたい。

8 【連語】いっしょに用いる前置詞・副詞

①連語は、語義番号の後ろに〔 〕で示してあるか、語義の後ろに〔 〕で示してある。

ポイント [to, for, of] [for, on, to, toward / in (doing)]などの記述が意味することを正しく理解させたい。

②動詞とよくいっしょに使われる副詞は、語義の後ろに（＋）で示してある。

ポイント 例えば（＋up）は「upは必須ではないがよく伴われる」ことだと理解させたい。

9 【類語】似た語を使い分ける

①類義語やその用法の理解には、**類語比較**や《◆》が役立つ。

ポイント 類義語の誤用は、語義領域の違い、使用場面に対する無関心、コロケーションの知識不足、母語の干渉など、種々の原因で起こる。用例による学習が効果的である。

10 【接辞】接頭辞・接尾辞を利用する

①接頭辞や接尾辞が見出し語として出ており、単語や派生語の意味・成り立ちを学ぶのに役立つ。

ポイント 接辞の知識は上手に使えば未知語の意味の推測や語彙力アップにもつながることを、問題に答える過程を通して実感させたい。

11 【日本語化した英語】カタカナ英語は注意しながら活かす

①【アクセント注意】【発音注意】《◆》の中に、カタカナ英語に関する注意すべき情報がある。

ポイント カタカナ英語は、語句・音声・意味の3点から検討することを習慣化させたい。

* * *

『G4活用問題集』は、自習教材、授業中の指導教材のどちらにも使用できる。また、すべての項目を集中的に学習させるほかに、ここぞというときに必要な項目を学習させるのも効果的である。

教師は、学習者が自ら学ぶ行為を手助けするfacilitatorでもある。英和辞典を片手に一人でも英語学習を進められる、たくましい自立した学習者を育てたいものである。

（こじま よしかつ・千葉県立茂原高等学校教諭）